

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	CoCoサポJr			
○保護者評価実施期間	令和7年3月4日 ～ 令和7年3月17日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	令和7年3月20日 ～ 令和7年3月28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月18日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者への適宜対応や、困り感へのアプローチは充実しているといえる。また、利用児童の満足度も比較的良好であることから、児童福祉サービスとしての意義を果たすことができている。 これらの強みは他事業所と共通する一方で、療育における同線の組み方や職員の資質向上などが当該の強みに繋がっていることから、他事業所との差別化が図られた独自の強みであると考察できる。	強みに共通する点として、日々の業務における職員の教育（研修も含む）の充実は、意識的な取り組みである。 また、利用児童への支援、特に情緒的な側面へのアプローチを優先して取り組むことで療育に繋げる同線を構築し満足度の向上を意識している。	事業所内で完結している支援を地域社会へとつなげることで、利用児童の社会的進出や地域社会の支援協力などを図れる。 また、それにより福祉サービスとしてのネットワーク形成にも寄与し、より充実した支援や各関係機関へのリファーも見込める。
2			
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援が事業所内で完結している点や利用児童の平均年齢からの外れ値となる利用児童への支援などが個別化してしまいやすい傾向が考えられる。 また、外部社会への進出が比較的希薄であるため、孤立化してしまいやすい特徴がある。	他事業所との福祉サービスにおけるネットワークの形成が希薄であるため、その点をリファーするなどして利用者の平均年齢からの標準偏差の値を狭めることができ、より充実した支援を構築することができる。	地域社会のイベントへの参加などを通して、利用児童の将来性を広げるなどの取り組みが改善への糸口として挙げられる。
2			
3			